

平成30年度

## 青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成30年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月8日(木)に実施し、9,115人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には15点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、社会は2.7点、理科は8.4点、英語は7.2点上回り、国語は4.9点、数学は8.4点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成30年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

### 得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	5	0.1	0	0.0	13	0.1	7	0.1
90～99	80	0.9	532	5.8	56	0.6	323	3.5	829	9.1
80～89	600	6.6	1,470	16.1	275	3.0	893	9.8	1,352	14.8
70～79	1,523	16.7	1,692	18.6	901	9.9	1,314	14.4	1,301	14.3
60～69	2,105	23.1	1,546	17.0	1,628	17.9	1,485	16.3	1,229	13.5
50～59	2,068	22.7	1,340	14.7	1,793	19.7	1,566	17.2	1,159	12.7
40～49	1,467	16.1	939	10.3	1,541	16.9	1,327	14.6	1,068	11.7
30～39	858	9.4	721	7.9	1,120	12.3	1,102	12.1	997	10.9
20～29	319	3.5	511	5.6	877	9.6	732	8.0	799	8.8
10～19	90	1.0	306	3.4	597	6.5	316	3.5	330	3.6
0～9	5	0.1	53	0.6	327	3.6	44	0.5	44	0.5
0(再掲)	0	0.0	4	0.0	21	0.2	2	0.0	1	0.0
受検者数	9,115	100.0	9,115	100.0	9,115	100.0	9,115	100.0	9,115	100.0
平均点	57.5		61.2		48.0		55.5		59.2	
標準偏差	15.7		20.9		19.8		20.4		22.9	
最高点	98		100		99		100		100	
最低点	5		0		0		0		0	
前年度平均点	62.4		58.5		56.4		47.1		52.0	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語

①の放送による検査は、生徒の発表と質疑応答を、資料を見ながら聞き、内容を捉える力、質疑応答での発言について考える力、聞き取った内容について自分の考えを表現する力をみる問題である。(1)は、調べたきっかけについて聞き取る問題であり、正答率は約3割であった。「中学生の(海外派遣)」など、必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。(2)は、中学生の感想について意外だったことを整理して聞き取る問題であり、正答率は約4割であった。「(知りたくなかったという)意見が多かった」など、必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。(3)は、質疑応答での発言について考えて聞き取る問題であり、正答率は約8割であった。(4)は、「おつかれさま」について、こめられている意味を考えて書く問題であり、正答率は約6割であった。「相手の労苦(へのねぎらい)」など、必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。

②は、漢字の問題である。(1)の読字では、オ「まかなう」を「おぎなう」、「はらう」などと読んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。書字では、キ「喜劇」を「奇劇」、「貴劇」など、同じ読み方の別の漢字で書いた誤答が多く、正答率は約5割であった。(2)は、文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ問題である。ア「交えて」は、「3 混然」を選んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。イ「書架」は、「3 城下」や「4 出荷」を選んだ誤答が多く、正答率は約3割であった。漢字については、文脈に合わせて正確に判断し、適切に用いる力を養うとともに、語彙を増やすことが大切である。

③は、『十八史略(じゅうはっしりゃく)』からの出題である。(1)は、漢文のきまりに従って書き下し文を書く問題であり、正答率は約4割であった。「曰わく」など、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す誤答が見受けられた。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、書き下し文の空欄に適する語句を選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。(3)は、文章の展開に即して、玄宗の気持ちを捉える問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、文章の展開に即して「天下は肥えたり」の内容をまとめる問題であり、正答率は1割を下回った。「天下は太った」「韓休は痩せてしまった」など、文章の内容を正しく捉えていないものが多かった。文章全体の内容を見通して捉える力が求められる。

④は、木村富美子(きむら ふみこ)の『運動会』からの出題である。(1)は、文章の展開に即して内容を捉え、文章中の空欄に適する語を選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。(2)は、文章の展開に即して、「あっけにとられて」の意味を捉える問題であり、正答率は約8割であった。(3)アは、文章の展開や表現に即して内容を捉え、文章中の空欄に適するものを選ぶ問題であり、Aの正答率は約6割、Bの正答率は約7割であった。(3)イは、文章の展開に即して、「本当のかけっこ」の内容を捉える問題であり、正答率は約3割であった。「賞やノートのために走る」など、文章の展開を捉えていないものが見受けられた。(3)ウは、文章の内容を捉え、父の考えをまとめる問題であり、正答率は約2割であった。「私」の行動がどのようなものなのかに言及せず、「本当の優しさとは何か」「本当はどうすべきなのか」のみをまとめているために減点されているものが多かった。文章の構成や展開、表現の仕方について考えながら文章を読むことが大切である。

⑤は、長谷川眞理子(はせがわ まりこ)の「ヒトの『はじまり』」からの出題である。(1)は、文節相互の関係についての理解をみる問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉

え、文章中の空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は、A、Bともに約7割であった。(3)は、文章の構成や展開に即して内容を捉え、「心の入れ子構造」についてまとめた図の空欄に適するものを選ぶ問題である。正答率は約9割と高く、基礎的・基本的な学習内容の定着がうかがえる。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、「世界の描写」の例として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(5)は、文章の内容を捉え、文章について述べたものを選ぶ問題である。「1」や「4」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。(6)は、文章の内容を捉え、蓄積的な文化が産み出された理由をまとめる問題であり、正答率は1割を下回った。文章の展開に即して内容を正しく捉えていないものや、指定された語句どうしの関連付けが十分でないものが多かった。文章に表れているものの見方や考え方について、展開に即して適切に読み取る力が求められる。

〔6〕は、新聞広告に用いられている文と写真から読み取った情報を解釈し、批評文を書く問題である。文と写真を用いた表現の仕方を観点に気づいたことを書いた上で、それを踏まえて自分の意見を書くという条件に即して論理的に書く力が求められるが、文と写真のどちらか一方のみに着目して書いたり、気づいたことを踏まえずに自分の意見を書いたりしたために減点されているものが多かった。資料や文章に対する自分の考えを書く場合は、読み取った情報と自分の意見を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)							
1	(1)	3	話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。	30.9	4	(1)	4	文学的文章を読む	文章の展開に即して内容をとらえる。	63.1				
	(2)	4	話の内容を的確に聞き取る。	35.5		(2)	4	文学的文章を読む	文脈の中における慣用語の意味をとらえる。	79.7				
	(3)	4	話の構成や展開を考えて聞き取る。	83.0		3	A	2	文学的文章を読む	文章の展開や表現に即して内容をとらえる。	55.1			
	(4)	4	発音を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	55.7			B	2	文学的文章を読む	文章の展開や表現に即して内容をとらえる。	71.0			
2	(1)	1	読字	常用漢字を読む。	把握	98.4	5	説明的文章を読む	(1)	4	文節相互の関係をとらえる。	68.2		
					折衷	68.7			2	A	2	文章の展開に即して内容をとらえる。	74.4	
					僅差	89.6				B	2	文章の展開に即して内容をとらえる。	69.1	
					緩む	89.8			(3)		4	文章の構成や展開に即して内容をとらえる。	85.5	
					脛う	56.8			(4)	4	文章の展開に即して内容をとらえる。	76.7		
					(2)	2			漢字の知識	文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	交通	58.0	(5)	4
	(1)	1	書字	学年別漢字配当表の漢字を書く。	祝福	54.4	6	意見文を書く	(6)	10	資料から読み取った情報をまとめ、自分の意見を書く。	平均点 6.2		
					喜劇	48.3			3	(1)	3	漢文を讀む	漢文のきまりに従って読む。	37.4
					専風	56.7				(2)	3	漢文を讀む	文章の展開に即して内容をとらえる。	62.6
					苦笑い	95.5			(3)	3	漢文を讀む	文章の展開に即して内容をとらえる。	68.2	
					浴びる	82.5			(4)	4	漢文を讀む	文章の展開に即して内容をとらえてまとめる。	1.2	
					イ	2			漢字の知識	イ	2	漢字の知識	交通	27.8

## 社 会

①は、地図の活用、アフリカの人口、自然、産業、経済に関する問題である。(2)ウは、アフリカ州にある4か国の貿易相手国を表す資料から、読みとることができる内容として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、「2 南アフリカ共和国の輸出入総額は、ボツワナ、コートジボワール、ナイジェリアの輸出入総額の合計額より多い」を選んだものが多かった。資料を読み取るだけでなく、適切に数字を処理する力が必要である。(2)オは、ガーナとタンザニアの輸出品を表す資料を参考に、アフリカ州の多くの国で見られる経済の特色について、「商品作物」と「鉱産資源」の2語を用いて適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「商品作物よりも鉱産資源を多く輸出している」などと書いたものが多かった。アフリカ州の多くの国の経済が、わずかな種類の商品作物や鉱産資源を輸出して成り立っていることの理解が十分ではなかったと思われる。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けることが大切である。

②は、北海道地方と北東北の自然環境や、発電所、植林活動と漁業の活性化の関連、函館市の地形図に関する問題である。(1)ウは、略地図中に示された発電所の分布を見て、再生可能エネルギーを利用する発電所の種類を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。日本のエネルギーについての基礎的・基本的な知識が定着しているものと思われる。(2)は、えりも町で行っている植林活動の様子を提示し、漁業が活性化した理由について、「山に木を植えることによって、」に続けて適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約2割であった。漁業と植林活動という異なる事象を関連付けて考え、表現する力が十分ではなかったと思われる。問われている内容を正しく理解した上で、知識と資料を活用して、思考・判断する力を高めていく必要がある。

③は、古墳時代から江戸時代までの日本と外国との関わり、各時代の特色についての問題である。(1)は、仏教が伝わった国(百済)を選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、「新羅」、「高句麗」が多かった。朝鮮半島の国々との関係を複数の事象と関連付けて理解することが必要である。(7)は、「古今和歌集」がつけられた時代と文化を書く問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、時代では「室町時代」、文化では「天平文化」が多かった。提示された資料から仮名文字が使われていることを読み取る力、時代や文化の特色を関連付けて理解する力が十分ではなかったと思われる。学習した内容の比較や関連付けにより、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、時代をとらえることが大切である。

④は、近代、現代の日本の政治、経済、外交についての問題である。(4)アは、日中戦争の前に起こったできごとを並べ替える問題であり、正答率は約1割であった。誤答としては、「4→2→1→3」「2→1→3→4」「3→2→1→4」が多く、日本の外交についての時期を間違えているものが多かった。(5)は石油危機(オイル・ショック)が起こった理由を「産油国」「価格」の2語を用いて適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、「石油がとれなくなったから」「戦争が起こったから」「産油国で石油価格が上昇した」と記述するものが多かった。地域紛争や一国に端を発した経済危機などによって、世界経済が大きく影響を受けることについて理解する力が十分ではなかったと思われる。近代、現代については、国内情勢と外交関係を関連付けて理解することが大切である。

⑤は、国際社会の仕組みや、さまざまな国際問題に関する問題である。(3)は、国どうしが特定の地域でまとまりを作り、協調や協力を強めようとする動き(リージョナリズム)を選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「1 ナショナリズム」を選んだものが多かった。国際社会の動きについての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、発展途上国の経済的自立を目指す運動(フェアトレード)を書く問題で正答率は約4割

であった。グローバル化が進む中で日本が国際社会に果たしている役割についての理解が十分ではなかったと思われる。国際社会が抱えている課題に対する興味・関心を高めていく必要がある。

〔6〕は、消費者を保護する法律や制度、企業や政府の経済活動、政府の財政政策に関する問題である。(1)は、消費生活上のトラブルから消費者を保護する法律や制度について、その名称と内容の組み合わせを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。消費者を保護する消費者行政の具体的な内容についての基礎的・基本的な知識が定着しているものと思われる。(5)は、国の一般会計のうち、歳出の内訳の経年変化を表した資料から、一番割合が高い項目(社会保障関係費)を選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「1 国債費」が多かった。日本の財政支出や社会保障の果たす役割の変化についての理解が十分ではなかったと思われる。(6)は、不景気のときに政府が行う財政政策について、適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「銀行から国債を買う」というものが多かった。政府の財政政策と日本銀行の金融政策の区別についての理解が十分ではなかったと思われる。身近な社会の仕組みについて、基礎的・基本的な内容を整理し、理解を深めることが必要である。

〔7〕は、インドに関連する社会的象徴についての、地理、歴史、公民の各分野に関する知識・理解を総合的にみる問題である。(2)アは、19世紀にイギリス、インド、中国(清)で行われた三角貿易の様子について、国名の組み合わせを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、「3 A-インド B-イギリス C-中国(清)」が多く、イギリスとインドの関係についての理解が十分ではなかったと思われる。(3)は、米の栽培に適した気候条件について、適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約7割であった。米の栽培条件に必要な気温と降水量との関連性を適切に表現できているものが多かった。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)						
1	(1)	2	地図の中心からの方位	87.8	5	(1)	2	私領域	60.5				
		2	地図の中心からの直線距離	78.6		(2)	3	安全保障理事会の常任理事国が持つ拒否権	82.1				
	(2)	ア	2	世界の中のアフリカ州の人口割合		45.2	(3)	2	地域主義(リージョナリズム)	37.7			
		イ	2	ケープタウンの雨温図		65.4	ア	2	温室効果ガス	66.9			
		ウ	2	ボツワナ、コートジボワール、ナイジェリア、南アフリカ共和国の資料の読み取り		49.7	イ	2	循環型社会	38.1			
		エ	2	NGO		61.3	(5)	2	フェアトレード	40.0			
		オ	3	アフリカ州の多くの国で見られる経済の特色		43.9	(6)	2	難民	78.1			
2	(1)	ア	2	環太平洋造山帯	89.8	6	(1)	2	消費者を保護する法律や制度	79.9			
		イ	2	カルデラ	80.8		(2)	2	貯蓄	48.4			
		ウ	2	風力発電所	72.9		(3)	2	ベンチャー企業	50.9			
	(2)	3	えりも町で漁業が活性化し理由	16.0	(4)		2	累進課税	73.0				
	(3)	ア	2	地形図中における実際の距離計算	71.4		(5)	2	国の一般会計の歳出の内訳	44.4			
		イ	2	地形図の読み取り	85.8		(6)	3	政府の財政政策	41.9			
3	(1)	2	古	2	百済	57.7	7	(1)	2	イン	2	権利章典	70.7
	(2)	3	代	3	聖徳太子が行った政治	67.0		ア	2	インド	2	イギリス、インド、中国(清)で行われた三角貿易	54.0
	(3)	2	の	2	白村江の戦いと遣唐使停止の間のできごと	62.8		イ	2	問題	2	ガンディー	87.5
	(4)	2	日本	2	南蛮貿易	85.7		(3)	3	関	3	米の栽培に適した気候条件	66.0
	(5)	2	近	2	16世紀のヨーロッパのできごと	55.8		(4)	2	する	2	均衡価格	87.8
	(6)	2	世	2	朱印状	65.5		(5)	2		2	シリコンバレー	69.8
	(7)	2		2	平安時代の国風文化	53.5							
4	(1)	2	近	2	文明開化	63.5							
	(2)	2	代	2	バルカン半島の場所	56.3							
	(3)	2	の	2	全国水平社	60.8							
	(4)	ア	3	日本	3	日中戦争の前に起こったできごとと並べ替え	10.0						
		イ	2	と	2	国家総動員法	78.5						
	(5)	3	世界	3	石油危機が起こった理由	33.8							
(6)	2	現	2	昭和(戦後)時代に起こったできごと	30.2								

## 数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(2)は、文字を用いて数量の関係を等式で表す問題であり、正答率は約6割であった。『5本ずつ  $b$  人に配る』ときの鉛筆の本数を式で表すことができなかつたと思われるものが見受けられた。(4)は、二次方程式を因数分解して解く問題であり、正答率は約8割であった。解を1つだけ求めたものや、因数分解を正確にできなかつたと思われるものが見受けられた。(6)は、相対度数を求める問題であり、正答率は約6割であった。中央値、相対度数についての知識が定着していないと思われるものが見受けられた。(7)は、円すいの立体からその展開図を利用して側面になる扇形の面積を求める問題であり、正答率は約5割であった。側面の扇形の弧の長さと同底面の円周が等しくなることに気付かなかつたと思われるものが見受けられた。(8)は、円周角と中心角の関係から角度を求める問題であり、正答率は約5割であった。図形の中で等しい角はどの部分か見つけることができなかつたと思われるものや三角形の内角の和についての知識が定着していないと思われるものが見受けられた。

②は、見直しをもって思考・判断する力をみる問題である。(1)は、2つの袋からそれぞれ1枚ずつ取り出したカードの数を題材とした確率についての問題であり、正答率は約8割であった。条件に合う場合の数を間違えたと思われるものが見受けられた。(2)イは、[ルール]に従ったじゃんけんのゲームに関して連立方程式を利用して解く問題であり、正答率は約1割であった。『あいこ』の条件を的確に捉え、結果を基に連立方程式を立式することができなかつたと思われるものや無答が多かつた。

③は、観察、操作を通してその立体図形、平面図形の性質を読み取るなど、論理的に考察し表現する力をみる問題である。(1)アは、三角形の合同の証明についての問題である。㉞の正答率は約7割であったが、2つの角が等しい理由として共通している角を見つけていくことができなかつたと思われるものが見受けられた。(1)イは、四角形  $AEDF$  が正方形であることを利用して角の大きさを求める問題であり、正答率は1割を下回つた。 $BD$  を  $\angle ABC$  の2等分線と考えたと思われるものが見受けられた。(2)イは、空間図形の中にみいだした三角形の面積を求める問題であり、正答率は約1割であった。 $\triangle APQ$  の高さを求めることができなかつたと思われるもの。(2)ウは、空間図形の中に三角形を見だし、辺の長さを求める問題であり、正答率は1割を下回つた。三角形の面積を求めるための底辺と高さの位置関係を2つの見方から導くことができなかつたと思われるものが見受けられた。(2)エは、正四面体の中に作られる2つの三角すいの体積を比較する問題で、正答率は1割を下回つた。三平方の定理を利用して  $RP$  の長さを求めなかつたため、 $AP : PR$  が体積比になることに気付かなかつたと思われるものや無答が多かつた。

④は、正方形の辺上を動く2点によってできる三角形の面積と点が動いた時間の関係をグラフに表現する力や、式を活用して解く力をみる問題である。(2)アは、 $x$  の値が2から6まで増加するときの変化の割合を求める問題で、正答率は約7割であった。変化の割合という知識を覚えていないと思われるものが見受けられた。(2)イは、 $x = 1.4$  のときの  $\triangle APQ$  の面積を求める問題であり、正答率は約3割であった。 $P, Q$  それぞれどの地点に達しているのかを判断できなかつたと思われるものが多かつた。(2)ウは、 $\triangle APQ$  の面積が16となるときの  $x$  の値を求める問題であり、正答率は1割を下回つた。題意から、条件を満たす  $x$  の値が2つあることに気付かなかつたと思われる。

⑤は、自宅から祖父の家まで高速道路と一般道路を使って向かうとき、与えられた条件から運転にかかっ

た時間や高速道路の料金を求める問題であり、学習指導要領で重視されている、多面的に捉える力をみる問題である。(1)は、一般道路で自宅を出発してから祖父の家に到着する時間を求める問題であり、正答率は約3割であった。表からの確な数を抽出すること、時間、距離、速さの関係をきちんと理解することができなかつたと思われるものが見受けられた。(2)は、㊸から高速道路に入り㊹で一般道路に出るときの高速道路の料金を求める問題であり、正答率は約6割であった。関係を表す式に数を代入して求めることができなかったと思われるものや無答が多かつた。(3)は、「高速道路の料金は3200円以内で、できるだけ早く到着したい」という条件をもとにして、高速道路の料金と時間の関係を考えることができるかをみる問題である。アは、どの出入口を利用するかを求める問題で、正答率は約4割であった。関係の式から距離を求め、それを超えない出入口はどこなのかを見つけることができなかつたと思われるものや無答が多かつた。イは、アするとき、自宅を出発してから祖父の家に到着するまでにかかる時間を求める問題で、正答率は約1割であった。一般道路と高速道路を利用したそれぞれの距離から、それぞれの時間を正しく捉えることができなかったと思われるものや無答が多かつた。(4)は、「ひろさんが一般道路で祖父の家に向かうとき、途中としさんが高速道路で追いかける」という設定をもとにして、利用した高速道路の時間と距離を考えることができるかを見る問題である。アは、どの出口を利用するかを求める問題で、正答率は約1割であった。題意から、追いつくまでの時間、距離を正しく求めることができなかったか、条件に合う出入口を見つけることができなかったと思われる。イは、としさんが高速道路を利用した距離から時間を求める問題で、正答率は1割を下回った。0.7時間を分の単位に正しく変換することができなかつたと思われるものや無答が多かつた。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や図形などに関して基礎となる原理や法則について理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)						
1	(1)	数と式	正負の整数の計算 (加減)	98.5	3	図形	三角形の合同の証明	㊸	1	75.5			
			正負の整数の計算 (乗法)	83.2				㊹	1	69.2			
			文字式の計算	83.3				㊺	1	74.5			
			文字式の計算	70.4			イ	3	5.5				
			式の展開	74.1				三平方の定理の利用	ア	2	63.8		
	文字の式	64.0	イ	3		14.4							
	(2)	4	式の値	70.6		ウ	3	5.0					
	(3)	4	二次方程式	75.4		エ	4	3.0					
	(4)	4	関数	反比例		72.9	(1)	3	60.5				
	(5)	4		資料の活用		相対度数	63.4	関数	ア	3	68.1		
	(6)	4	図形	円すいの展開図		48.1	イ		3	29.8			
	(7)	4		図形		円周角の定理		54.7	ウ	4	7.8		
(8)	4	資料の活用	確率		77.2	5	関数	(1)	3	33.0			
(2)	数と式	連立方程式の利用	6.8	(2)	3			57.5					
				イ	2		8.4	数と式	1次方程式の利用	ア	2	36.5	
(3)	イ	4	12.5	ア	1		9.5						
										(4)	イ	4	4.1

## 理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(2)イは、生態系内での分解者についての問題で、正答率は約4割であった。分解者の役割を担う生物を正しく選択することができなかったものと思われる。(3)イは、7～10月の日本列島に近づいた台風が、中緯度から進路を東向きに変える理由を問う問題で、正答率は約5割であった。気団や季節風を理由に挙げる誤答が目立った。(4)イは、地球の公転と季節による星座の移り変わりについての問題で、正答率は約4割であった。地球から見た太陽が、星座の間を西から東へ少しずつ動くという思考ができなかったものと思われる。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)イは、飽和水溶液をつくるのに必要な水の量を求める問題で、正答率は約6割であり、不正解の約2割は無解答であった。(2)アは、水の電気分解における、電流を流しやすくするために加える物質を問う問題で、正答率は8割を超えた。(3)イは、音を高くするための操作を問う問題で、正答率は約7割であった。(4)は第1学年の「力のはたらき」と第3学年の「力のつり合い」の学年を融合した問題で、正答率はアが約5割、イが約8割であった。アでは、力のつり合いを「aとc」、作用・反作用を「aとb」とする誤答が目立った。

③は、ヒトの生命を維持するしくみに関する問題である。知識を問う問題の正答率は高く、(1)は横隔膜の名称を問う問題で約7割、(2)イは、指定語句を用いてヘモグロビンの性質を記述する問題で約7割、(3)アは細胞のすき間を満たしている液の名称を問う問題で約7割、(3)イは不要物の排出について適切なものを選択する問題で約8割であった。正答率が低かったものは、(4)の、激しい運動により心臓の拍動や呼吸が激しくなる理由を記述する問題で、正答率は約2割であった。呼吸と血液の循環に着目し、3つの資料を関連付けて論理的に思考し、表現することが難しかったと思われる。

④は、酸・アルカリとイオンに関する問題である。(1)アは、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和を表す化学反応式の $H_2O$ を問う問題であり、正答率は約8割であった。(1)イは、3つのビーカーにおいて、2つの手順により塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えたがどれも中性にならず、それらを中性にするのに加える水溶液の種類と体積を問う問題で、正答率は約3割であった。誤答としては、加えた水溶液を「B」とした割合が半数ほど、体積の数値も多岐にわたるが、中でも「5.5」が多かった。問題文にある表を見て答えたものと推測され、必要なデータを用いて適切に処理することができなかったものと思われる。(2)アは、硫酸イオンのイオン式を答える問題で、正答率は約3割であった。(2)ウは、硫酸に水酸化バリウム水溶液を加えていったときの水素イオンの数の関係を表したグラフを選択する問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「5」が多く、中和反応で水素イオンと水酸化物イオンから水が生じるため水素イオンの数が減少していくことを思考・判断できなかったものと思われる。(3)は、2つの実験で生成した塩の水溶性を問う問題で、正答率は約2割であった。誤答は多岐にわたるが、中でも「実験1では塩ができなかった」「実験1の方が塩が少なかった」というものが多く、無解答もあった。

⑤は、電気回路に関する問題である。(1)は「オームの法則」と答える問題で正答率は9割、(2)アはオームの法則を用いて電熱線に流れる電流を求める問題で、正答率は約8割であった。(2)ウは、XY間に電熱線bと電熱線cをそれぞれつないだときの電源電圧の比を求める問題で、正答率は約1割であった。誤答としては「5:4」が多かった。XY間の電圧が1.0Vのとき、オームの法則より電熱線bをつないだとき



の電熱線 a には 2.5 V、電熱線 c をつないだときの電熱線 c には 2.0 V の電圧がかかるので、この比をとって「5 : 4」にしたものと推測される。複数のデータを選択して思考・判断し、条件に即して数値を適切に処理することが難しかったものと思われる。(3)イは 2 個の豆電球を直列から並列につなが変えたときの豆電球の明るさの変化とその理由を問う問題で、正答率は約 3 割であった。①で「3」を選択したのは約 5 割であり、並列につながると全体の抵抗が小さくなることの理解ができていなかったものと思われる。

⑥は、地震に関する問題である。(1)アは、日本付近におけるプレートの断面のようすと動きについての問題で、正答率は 9 割を超えた。(2)アは、S 波の進む速さを求める問題で、正答率は約 3 割であった。誤答は多岐にわたるが、P 波の進む速さを求めたと推測される「8」を解答した例も一部あった。また(2)イは、震源からの距離と初期微動継続時間との関係をグラフで表す問題で、傾きの異なる直線を解答した誤答が目立った。グラフの読み取りができていない、または速さを求める計算の技能が身に付いていないものと思われる。(2)ウは、震源までの距離が 72 km 点で初期微動が始まったと考えられる時間を求める問題で、正答率は約 2 割であった。誤答は多岐にわたるが、22 分 9 秒など、地震発生から 9 秒後に初期微動が始まったことまでは求められても、地震発生時刻に加えなかったと推測されるものもあった。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、事象を多面的に捉えて科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
①	(1)	ア	2	被子植物の花のつくりとはたらき	花のつくり	81.6	④	酸・アルカリと中和反応	(1) ア	2	中和の化学反応式	84.9
		イ	3		花から種子	92.1			(1) イ	3	中和における体積の関係	25.0
	(2)	ア	2	生態系内の物質循環	光合成	81.6			(2) ア	2	塩を構成する陰イオン	25.3
		イ	3		分解者	35.7			(2) イ	2	身のまわりの溶液の pH の値	50.6
	(3)	ア	2	大気動き	海風と陸風	48.3		ウ	3	中和における水素イオン数の変化	36.2	
		イ	3		台風の代表的な進路	51.2		(3)	3	塩の水溶性	17.9	
	(4)	ア	2	星の年周運動	1 年間の星座の見え方の変化	47.3		(1)	2	オームの法則	92.5	
		イ	3		黄道	39.6		ア	2	電熱線に流れる電流の大きさ	84.3	
②	(1)	ア	2	水溶液の性質	溶媒	69.8	⑤	電気回路	(2) イ	2	電熱線の抵抗の大きさ	62.2
		イ	3		溶解度	55.0			ウ	3	電熱線を入れ替えたときの電源電圧の比	9.6
	(2)	ア	2	水の電気分解	電流を流しやすくするために加える物質	81.5			ア	3	電圧を変えたときの消費電力の比	33.0
		イ	3		陰極、陽極に発生する気体	52.5			(3) イ	3	直列と並列での豆電球の明るさ	27.9
	(3)	ア	2	音の性質	音の大きさ	77.3	⑥	動き続ける大地	(1) ア	2	プレートの断面のようすと動き	92.5
		イ	2		音の高さ	69.3			イ	2	断層	83.0
	(4)	ア	2	力のつり合いと作用・反作用	つり合い、作用・反作用	52.0			ア	2	S 波の進む速さ	34.1
		イ	3		机が本を押す力	75.4			イ	3	震源からの距離と初期微動継続時間との関係	56.3
③	(1)	呼吸と血液の循環	ア	2	横隔膜	70.3	ウ	3	初期微動開始時刻	16.7		
			イ	3	肺循環	49.1	エ	3	震度とマグニチュード	61.9		
	(2)		ア	2	ヘモグロビンの性質	68.7						
			イ	3	組織液	66.5						
	(3)		ア	2	不要物の排出	83.8						
			イ	3	運動により心臓拍動や呼吸が激しくなる理由	16.1						
	(4)		ア	2								
			イ	3								

## 英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語の説明と質問を聞いて適切な絵や英語を選ぶ問題である。アの正答率は9割以上、イの正答率は約4割、ウの正答率は約8割であった。イは人物の位置関係を正確に捉えることが難しかったようである。(2)は、アメリカ合衆国のハワイにいる文通相手についての話を聞いて質問に答える問題である。アの正答率は9割以上、イ、ウの正答率は約7割であった。(3)は、対話と質問を聞いて答として適切な応答文を選ぶ問題である。ア、イの正答率は約8割であった。(4)は、外国語指導助手の先生の話と質問を聞いて英語で答える問題である。「I favorite month is October.」のように、代名詞の表現が適切でないものが見受けられたが、無答は少なかった。全体的に正答率は高く、様々な情報を整理し、話の内容や要点を正確に聞き取ったり、適切に応じたりすることができていたと思われる。

②は、英作文の問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語を並べかえる問題である。アの正答率は約8割、イ、ウの正答率は約6割であった。アは、慣用表現である「Why don't you ~?」が定着していたようである。イは、「She told to watch me.」のように、「tell + 目的語 + to 不定詞」の表現パターンを十分に理解できていないものが多かった。ウは、「This a movie is made by ~」のように、過去分詞である「made」の後置修飾をきちんと理解できなかつたものも多く見受けられた。(2)は、映画の作品一覧と対話の流れから、空所に入る適切な英語を書く問題であり、正答率は約4割であった。(3)は、対話の最後を受けて自分の考えを、その理由も含めて15語以上の英語で表現する力をみる問題である。文法的な間違いは多少あるものの、無答は少なく、全体的に自分の考えが伝えられていた。

③は、日本に留学している外国人と友人及びその友人の母親の間でやりとりされた電話の応答を題材とした問題である。(1)は、電話での応答に合わせて適切な英文を選ぶ問題であり、Aの正答率は約7割、Bの正答率は約8割であった。(2)は、電話のやりとりを正確に読み取った上で適切な英文を書く問題である。ア、イ、ウの正答率はともに約3割であった。アは、疑問詞「When」で始めることを理解しているものの、「When do you hold?」と目的語の「it」を忘れていたものや、「When will you ~」とすべきところを「When do you ~」とするなど時制の誤りが多く見受けられた。イは、答えの中に「Sunday」が含まれることを理解しているものが多かったが、「next」や「is」の付け忘れが多く見受けられた。ウは、「Where」で始めることを理解しているものの、応答の中で出てきた「けん玉」という単語を複数形の「them」ではなく単数形の「it」で答えるものも多く見受けられた。基本的な文法事項に関する知識、理解をより高めていく必要がある。

④は、英語の授業で行った生徒のスピーチを題材とした問題である。(1)は、スピーチの内容と合うように、適切な日本語を書く問題である。アの正答率は9割以上、イの正答率は約4割、ウの正答率は約6割であった。イは、スピーチの中盤以降の内容を正確に把握できなかつたものと見受けられる。(2)は、英問英答の問題である。1の正答率は約7割、2の正答率は約4割、3の正答率は約5割である。2は、内容把握はできているが、使用する動詞を誤っていたり、動詞が欠落していたりするなど英語の基本構造を理解できていないものも多く見受けられた。3は、三人称単数現在の「s」が欠落している誤りが多く見受けられた。(3)は日本語を英語で書く問題である。1、2の正答率はともに1割を下回った。1は、「~するための本」という部分を to 不定詞や関係代名詞で表現しているものが多数あり、「for ~ ing」の理解が十分ではなかつた。

たと思われる。2は、名詞を関係代名詞で修飾する構造と、その構造の中で現在完了形が使用されることを理解できていないものが多く見受けられた。既習事項の復習により、基本的な文法を活用する力をより高めていく必要がある。

⑤は、2人の中学生が3日間の「職場体験」を終えたときの感想を、外国人の先生と話しているという長文を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題である。ア、イの正答率は約5割、ウの正答率は約8割であり、本文の内容は概ね捉えられていると思われる。エの正答率は約4割であった。登場人物の心情の変化を本文から読み取ることと、解答の根拠になる文を正確に見つけ出すことができなかつたものと思われる。(2)は、本文の内容と合うように適切な語を選び、英文の要約を完成させる問題である。アの正答率は約5割、イの正答率は約7割、ウの正答率は約5割であった。アは、直後にある「from」から「be different from～」を、イは、文の構造から動詞「learned」を、ウは、英文全体の流れから「chances」を推定したものと思われる。本文を正確に理解した上で、本文以外の英語を用いて要約する力が求められる。(3)は、下線部の内容から、男子生徒の考えの変化を日本語で具体的に書く問題である。正答率は約2割であり、無答もかなり多く見受けられた。多くの中学生にとって経験のある職場体験に関する内容にもかかわらず正答率が低く、答えの根拠になる部分を正確に抜き出し、それをまとめて表現するのが難しかったと思われる。「仕事は自分のためにするもの」、「将来の生活のために働く」といった誤答例のように、本文の内容を正確に捉えていないものも多く見受けられた。

英語では、英文全体の流れをつかみながら、個々の重要な部分を正確に理解する力や、文の構造を理解した上で適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)							
①	(1)	リスニング 英文と質問を聞いて、答えとして適切なものを選ぶ。	ア 3	95.6	④	ライディング スピーチの内容と合うように、適切な日本語を書く。	ア 2	97.5						
			イ 3	39.7			イ 2	36.9						
			ウ 3	76.8			ウ 2	62.3						
	ア 3	96.1	1 3	69.7										
	イ 3	65.7	2 3	38.6										
	ウ 3	64.1	3 3	46.2										
	(2)	英文と質問を聞いて、答えとして適切なものを選ぶ。	ア 3	80.6		(3)	1 3	1.6						
			イ 3	74.7			2 3	6.6						
	(3)	対話と質問を聞いて、適切な応答文を選ぶ。	ア 3	80.6		⑤	ライディング 下線部の日本語を「～するための本」、「～し続ける」という表現を含んだ英文に直す。	ア 3	48.9					
			イ 3	74.7				イ 3	49.1					
	(4)	英文と質問を聞いて、適切な英語で答える。	ア 3	80.7				ウ 3	ライディング 本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	ウ 3	76.3			
			イ 2	60.2						エ 3	40.9			
ウ 2			54.8	ア 3	ライディング 本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。					ア 3	51.9			
平均点 3.0			イ 3							66.0				
②	ライディング 意味が通るように語を並べかえて、慣用表現を含んだ英文を完成させる。	ア 2	80.7	ライディング 下線部の日本語を関係代名詞と現在完了形を含んだ英文に直す。	ウ 3		ライディング 下線部の内容から、主人公の考えの変化を日本語で具体的に書く。	ア 3	48.9					
		イ 2	60.2					イ 3	49.1					
		ウ 2	54.8					ウ 3	76.3					
	(2)	資料に書かれてあることを参考にして、空所に入る適切な英語を書く。	ア 2					36.8	ア 3	ライディング 本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	ウ 3	ライディング 下線部の内容から、主人公の考えの変化を日本語で具体的に書く。	ア 3	51.9
			イ 2					36.8					イ 3	66.0
			ウ 2					36.8					ウ 3	52.1
③	ライディング 自分の考えを15語以上の英語で書く。	ア 2	73.7	ライディング 下線部の日本語を関係代名詞と現在完了形を含んだ英文に直す。	ウ 3	ライディング 下線部の内容から、主人公の考えの変化を日本語で具体的に書く。	ア 3	48.9						
		イ 2	36.8				イ 3	49.1						
		ウ 2	36.8				ウ 3	76.3						
	(1)	ライディング 電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。	A 2				75.5	ア 3	ライディング 本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	ウ 3	ライディング 下線部の内容から、主人公の考えの変化を日本語で具体的に書く。	ア 3	51.9	
			B 2				75.5					イ 3	66.0	
			ア 3				33.1					ウ 3	52.1	
(2)	ライディング 電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を書く。	イ 3	29.8	ウ 3	ライディング 本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	ウ 3	ライディング 下線部の内容から、主人公の考えの変化を日本語で具体的に書く。	イ 3	66.0					
		ウ 3	33.4					ウ 3	52.1					
		ウ 3	33.4					ウ 3	20.2					